

新たな生をめざして

ベナレス・スター・キャンプ（一九二九年）

《以下は、一九二九年十一月十日から十七日にかけてベナレスでおこなわれたトウクの記録である。同年八月三日に 星の教団 を解散後、十月二十三日にボンベイに到着し、そこで三回にわたるトークをおこなっている。神智学協会から離れ「正式には十二月二十六日に脱会している」、一般向けに話し始めた頃のもので、依然として神智学を含む諸々の古い教えの影響下にある聴衆をそれらから解放させようとする熱意がみなぎっている。》

I

友よ。キャンプという考えの意義はもっぱら、キャンパーが戸外で生活し、自由を楽しみ、毎日を真の休日にあることにあるのです。キャンパーは、雑事に煩わされずに自分の精神と心を真剣に集中させられるように、日常生活の重荷から自由になるべきです。もし料理をしなければならなければ、休日にはならないでしょう。大事なことから自分の気持ちを集中させられないでしょう。私にとって、このキャンプはカルチャー・センターです。もしあなた方が私の話をきちんと聞けば、ここを去った後、自分の行動、気品、習慣をまわりの人々に伝え、それによって彼ら

に人生への正しい見方を養わせることができるでしょう。

これから夕方に「キャンプファイヤーを囲んで」語られる私のトーク中に、私が言うことからよりはむしろ、単なる言葉を超えたところにある意味から、あなた方のためになるものをつかんでいただきたい。自分が感じていることを言葉で言い表わすことは、たとえ人が言葉の使い方においていかに偉大なアーティストであろうと、非常に困難であり、そして私はそのようなアーティストではありません。私は雄弁な演説者、あるいは偉大な講演者であろうとは思いません。そうではなく、私はあなた方の各々に、完全だと私が見出したもの、私に悟りを与えたもの、私を到達させ、その達成したものを永続的かつ永久的に防御する力を与えてくれたもの、それらを伝えたいのです。

自分が理解したいと思っているものを明晰に理解し、明晰に知覚するためには、あなた方を自力で自分の目標へと至るよう導いてくれ、あなた方の真のガイド、支配者そして友となってくれ、ものごとをはっきり見る、あの内なる目(mirror)を開かなければなりません。そのためには、いくつかのことが必要です。まず、日中、余暇(aisance)を持たなければなりません。「余暇」によって私は、熟考するゆとり、自分が過去に身につけてきたものを脇に片づけ、それによって、自分の人生で絶対必要なものを見極める機会のことを意味しています。あなた方は、独居の感覚(a sense of solitude)を発達させる時間を持つようになるでしょう。ほとんどの人は単独でいることを恐れています。あなた方が熟考することができるようになり、独居の感覚を感じることができるようになる時、それはあなた方に、多数に取り囲まれている時よりずっと大きな力を与えるこ

とでしょう。

あなたがここにおられるのは、どこに自分が行こうとしているのか、また、あなた方を完成（perfection）という目標、万人のための目標、すなわち真理へと導くであろうあの道をどのようにしてたどつたらいいかを、自力で見出すためです。見出すためには、絶えずおしゃべりしたり、常に集会に出たり、常に人々によつて制限されたりしてはだめです。余暇を持つこと、沈黙と独居の時間を持つことが必要なのです「文末 参考 を参照のこと」。

もしあなたが自分自身の人生を見つめてみれば、そこにはなんの秩序もないこと、思考と感情が実生活と無関係であること、思考が切り離され、いわば別の部屋の中にあるということがわかるでしょう。このキャンプ生活の役目はあなた方の精神に十分な理解を与え、それによつてあなた方が自分の思考を行動に表わすことができるようにすることです。例えば、知的理論としての親切への信念を取り上げてみましょう。あなた方は全員、自分の子供を親切に扱うべきだ、妻に親切にすべきだ、等々と考えておられる。が、大部分の場合、それは知的世界に留まっています。あなた方は偉大な哲学、偉大な観念を持ち、過去に大教師を持つてきましたが、しかしそれら（彼ら）はすべて単なる伝統になり、彼らの教えや哲学は本の中にはありますが、あなた方の人生の中にはないのです。

もしあなたがこのキャンプを実りあるものにしなければ、それはあなた方自身が悪いのです。あなた方は大金を費やし、多大の犠牲を払つてここに参集されました。が、多分、ブルガリアからオーメン（オランダ）のキャンプまで、六週間かけて徒歩でやつて来た私の友人の一人ほどで

はないでしょう。あなた方は大きな犠牲を払いましたが、もしあなた方の精神から、心と精神をなだめすかし、殺してしまうあの「満足」を一掃しなければ、あなた方はけつしてみずからの完成、個人としての独自性を成就することはできないでしょう。あなた方は全員、一定のことを信じておられる。何かに献身しておられる。が、他の多くの人々もまたそのような信念を持ち、何かに献身しています。どんな点であなた方の献身と理解は異なるのですか？ どのようにあなた方の献身と理解を日常生活の中で表わすのですか？ 通過していく船に警告するために灯台が暗い海岸で目立っているように、どのようにしてあなた方は目立つようにするのですか？ どのようにしてあなた方は人々全般を助けるのですか？ 結局、それが人生で重要な唯一のことなのです。自分自身の称号でも、身につけるバツジでも、自分が属しているカーストでもなく。重要なことは、どのようにしてあなた方が助けるかです。そしてあなた方は、真理をはつきり知覚した時、真にみずからの目標を確立した時にのみ、本当に助けることができるのです。

このキャンプでの私の夕方のトーク中に、私は、あなた方自身のものであるあの願望(wish)をあなた方の前にはつきりと示し、それをあなた方が見、それについてあなた方自身が熟考できるようにしてみたいと思います。で、私は再び、このキャンプは休日ではありませんが、それは真の意味のそれ 日常生活の重荷から、家庭の煩わしさからのそれ であって、私たちにゆるみを引き起こすべきではないということを指摘しておきたいと思います。「ゆるみ」によつて私が意味しているのは、だらしない(たるんだ)態度(振舞い)(behavior)のことです。なぜなら私は、態度は もしそれが適切に日常生活で表わされる時は 正しい生き方(righteousness)になると

確信しているからです。態度によって私が意味していることの詳細には、ここでは立ち入りませ
ん。あなた方は、どなたも、私が意味していることをよくご存じでしょう。どのように坐るか、
どのように歩くか、どのように衣服を着るか、どのように精神を清めるか、どのように心を気高
くするか これらのすべてが態度の範囲内に入ります。で、いったんあなた方が最高の意味
での態度を理解すれば、あなた方は正しい生き方を理解したのです。そして理解とは、その正し
い生き方をあなた方自身の心にしっかり根づかせることなのです。

最後に、目に見える美への愛が、私たちが完成に至るのを助けるということを、私は指摘して
おきたいと思えます。それは、あなた方が美しいものに囲まれていなければならないということ
を意味しています。美は、私たちがこれらのキャンズで培い、世界中に広めていこうとしている、
最も大事なものの一つです。

私たちは、来年、二つのキャンズ集会を 一つは北で、一つは南で 開催する予定です。
すでにマダナパール「訳注 クリシユナムルティの生誕地。マドラスとバンガロールの間にある、小さな丘の
町」に十分な広さの土地を購入してあり、さらにこの付近に十分な土地を借りようと考えていま
す。私たちはこれらのキャンズ場に目に見える美を与え、あなた方が美をありのままに見つめ、
どこに行っても美に接することができるようにし、それによってあなた方に「美を愛好する」美し
い性質を培ってもらいたいです。あなた方は、美の真価を正しく認めることができる時にのみ、
美への愛を発達させることができます。かくして私たちは、美しいものを美しいものとして認め
るためには、自分の内部に偉大さを持たなければならないという、永遠の法則に立ち戻ります。

そういうわけで、友よ、トークを終わらせる前に私は、生についての新たな理解を欲している人々を励まし、彼らに助けの手をさしのべたいと思います。新たな理解を得るためには、あなた方はこれまでを集めてきた様々な上着、様々な蓄積物を取り除かなければなりません。あなた方は、今日から真新しい石板スレートを用意し、その上に自分の心と精神が願っているものを書くようにしなければなりません。私たち自身の中にあるあの完成に至るかどうかが、あの幸福を手に入れるかどうかは、あなた方自身の願望次第だからです。その目標を理解し、確立するためには、苦しみ、苦痛、観察から生まれた、とてつもなく大きな燃えるような願望を持たなければなりません。あなた方は、どうかこれから数日の間に自己改造を遂げ、暗黒の中に暮らしている人々を助け、彼らに光と理解を与えることができる、偉大な存在に生まれ変わってください。

参考 若い頃クリシュナムルティと親交を持ったことがある神話学者ジョセフ・キャンベルは、『神話の力』(早川書房)の中で次のように述べています。

これは、当今の誰にとつても絶対的な必要事です。一部屋あるいは一日のうちの一時間ほどを確保して、その中では、あるいはその間はその朝の新聞に何が書かれていたかも、誰々が自分の友だちであるかも、自分が誰にどんな世話になっているかも忘れるようにしなければなりません……これは、あなたが単にありのままの、あるいはあるかもしれない自分を体験し、さらけ出すことができる場です。これは、創造的孵化の場です。初めは、そこでは何も起こらないように思われるかもしれませんが、もしあなたが聖なる場所を持ち、それを用いれば、何が結局は起こるでしょう。

今晚私は、重要なのは個人であつて、集団ではないということ、また、真理があるのは最高の叡智の中にだということ、さらに、真理は、弱い人間のレベルへ「電圧を下げるように」引き下げられ、翻訳され、受け入れられるようにはされえないということを、徹底的に明らかにしたいと思ひます。叡智とは、本質的なものを見分け、非本質的なあらゆるものを拒む力のことです。最高の精神の特質であるその本質的なものを確立することが、人間の目的です。これから私が話している間に、私が言っていることを実験してみてください。すなわち、それを単に鵜呑みにせず、もし私の言うことが妥当で、バランスが取れており、考え抜かれているとわかつたら、吟味検証後それを受け入れ、自己変革を遂げるように心がけてください。

私はこのトークを、あなた方がただ聞き、それから何の価値もない皮相な判断とともに帰宅するといった、ただのレクチャーにはしたくありません。なぜなら、あなた方がここに居るのは、あなた方が私を判断するためで、私があなた方を判断するためでもないからです。いかなる人もとりわけ彼の精神が偏見にとらわれていれば、他の誰かのことを判断することはできない、と私は言明します。もしあなた方が一定のことをもちろんのことと思ひ、実験と分析の過程で慎重に吟味し、苦しみを味わわなければ、あなた方の判断は何の価値も持たないでしょう。私はこのことを、なんら思ひ上がつた気持で言っているではありません。

もしあなた方が、私が言うことを明晰な心で、正気でバランスのとれた判断で、非個人的に、

公正に判断することができると開かれた精神で受け入れれば、あなた方は（偏見のない）公平無私な基準をみずからの力で確立することができます。これらは単に口から出任せの言葉ではありません。私が話している間に、あなた方は自分自身を変えることができますのです。なぜなら、結局のところ、人生で重要な唯一のことは自分が変わることに、自分の経験を通じて根源的に（radically）変わり、自分自身で真理を発見するようにすることです。何もかも受け入れないこと。誰がそれを言おうと問題ではありません。過去の賢者であろうと、過去あるいは現在の文献であろうと。重要なことは、人生の本当の意味、毎日のあらゆる小さな出来事の真の意義を、みずからの明晰な思考と理性によって確信することなのです。さもなければ、あなた方は絶えずこの混迷の世界、現象の世界から逃避し、それによってこの軋轢あつれきからの避難場を求め続けたがるでしょう。が、それは沈滞を意味しているのです。

さて、当然のことですが、この種のトークでは、あなた方は私が用いる言葉の奥の意味をつかむようにし、字義どおりの意味に甘んじないように心がけなければなりません。すなわち、私が言っていることの意味を十分につかみ、十分に理解しなければならぬ。単に私が用いている表現によって判断しないで、言葉に表わされていない意味合いや感情や思いをつかまなければならぬのです。さもなければ、私たちはお互いに完全に誤解してしまおうでしょう。私は、いかなる伝統的な意味も持たない言葉、あなた方が一日のあらゆる瞬間に用いるような、日常生活の通常の意味を持っている言葉を用いることにします。

ここで私は、自分が伝道者としてあなた方に説教し、あなた方を何らかの結社に加入させよう

としてゐるのではないということをおぼやかしめ申し上げておきます。スピリチュアリティにはいかなる結社もありません。個人的に真理に至るためのいかなる方式も、一定の企てを人間に強いといかなる宗教集団もありません。これはあなた方のうちの誰かを改宗(Conversion)させるためのトークではありません。なぜなら、生(II)を改宗させ、あなた方が曲つてゐる時にあなた方をまっすぐにするのは、生(III)だからです。もしあなた方が苦しんでいなければ、生(III)があなた方に苦しみを味わわせます。もしあなた方が思慮深くなければ、生(III)があなた方を思慮深くさせます。さらに、もしあなた方が、あなた方の心を揺り動かす、養つ、いかなる感情も持つていなければ、生(III)があなた方の感情、愛情、愛を自覚めさせるでしょう。

私はあくまでも個人にこだわり続けます。なぜなら、世界を構成してゐるのは個人であり、そしてその個人が悲しみ、不和、混乱の輪に巻き込まれていけば、彼が何をしようと、それはその不和、混乱、様々な苦闘を引き起こす果てしない誤解をさらにつのらせてしまつからです。個人つまり、あなた方自身は、適合(Conformity)によつて成長または発達することはできません。すなわち、あなた方は自分の内面的成長、それが、結局はスピリチュアリティなのですが、のために、いかなる思想体系に従つことも、他の誰にも、あるいはいかなる宗教のいかなる經典の言葉にも頼ることはできないのです。私は、あなた方が全員同意しないことを知つています。それで結構です。が、あなた方は理性をもつて異議を唱えなければなりません。もしあなた方の経験が私が言つてゐることと相容れないと判明すれば、あなた方が正しいのです。なぜなら、それは私の関心事であるあなた方自身の発達であつて、私の特定の言い分ではないからです。も

しあなた方が自分の成長は他の誰かを頼りにすることにかかっていると思うのなら、あなた方はそれを実験し、それに全身、全意志、全エネルギー、全情熱を傾注し、それに取り組むことができるはずです。そうすれば、それがあまり価値がないことに気づくことでしょう。あなた方は、それゆえ、個人として発達するために存在しているのです。それが、人生が存在すること、あなた方が個人としてこの世界にいることの唯一の理由です。すなわち、個人　あなた方　は腐敗 (corruption) から腐敗へと成長し、ついに個人としての絶対的な完成 (perfection) に至らなければならないのです。

私が「完成」によつて何を意味しているか、これから説明しましょう。私は、単に面白半分に言葉を使っているわけではありません。あなた方がついに自由になり、絶対的に完成し、精神が動揺しなくなり（平静になり）、不壊なる愛を持つに至るまで成長するのは、腐敗から腐敗へ、狭隘さから狭隘さへ、制限から制限へと「次々とハードルをくり抜けるように」経巡ることによつてなのです。さて、あなた方はこの発言に多かれ少なかれ同意するでしょう。賢そうに頭を横に振り「インド人は頭を縦にはなく横に振って同意したことを示す」、帰宅し、そしてまったくそのとおりだと言つてでしょう。頭を横に振り、単に同意することにはなんの価値もないのです。

もしあなた方がこの点で私が正しく、それが必要不可欠だと思うのなら、私は革命とかその類いのことを唱えているわけではありません。宗教のすべての非本質的なものは消えてなくなるしなければなりません。なぜなら、あなた方は個人として、外部の状況の圧力に十分耐えられるほど強いからです。が、もしあなた方がこの点で私が間違っていると思うのなら、あなた方は

闘わなければなりません。私に有無を言わせないようにしなければなりません。無関心 (indifference) であることはできないのです。なぜなら、無関心はより大きな悲しみ、より大きな災いに行き着くからです。あなた方は、自分が正しいと思うことにおいて活発になり、自分の全情熱、確信をもって、妥協することなく、そのためになることをしなければなりません。それが、スピリチュアリティにおいて、あるいはこの世界で偉大になるための道なのです。大きな野心を抱き、自分の情熱と理解をもってそれに備え、そしてそのすべての野心を犠牲にすること。単に無関心をつのらせて、自分の動きを制限したりしないこと。適合は自発性 (initiative) を殺します。

あなた方は自主的に考え、自立する「自分の足で立つ (stand alone)」ことを覚えなければならないのです。世間はあなた方が間違っていると判断するかもしれないかもしれませんが。願望は経験においてのみ思いを遂げることを探しています。それは常に制限に対して闘っています。願望は経験によつてのみ拡大で、無制限で、測ることができ、経験によつてのみ成長することができ、経験によつてのみ拡大で、無制限で、測り知れないものになりうるのです。さて、もしあなた方が他の誰か、あるいは思考・感情の伝統に適合すれば、そのような伝統への適合は、個人としてのあなた方を発達させるかわりに、だいたいにしてしまうでしょう。それゆえ、成長するためには、あなた方は経験を重ねなければならぬのです。それが唯一の法 (law) です。もし法というものがあるとすれば。しかるに、生はいかなる法も、いかなる哲学も持っていません。

経験は、あなた方 個人 を大いなる高み (great heights) へと成長させる唯一のものです。それゆえ、あなた方は不満 (discontent) を抱かねばなりません。ありとあらゆる思考、ありとあら

ゆる感情、嘗々として築かれてきたあらゆる伝統に不満を抱かねばならないのです。あなた方は、疑う力を持ち、その懷疑(doubt)によって何が真理か、何が本質的か、何が永続的かを発見しなければなりません。が、あらゆるものを疑うには叡智の力、明晰な思考の力が必要です。なぜなら、朝から晩まで、絶えず問い、求め、執拗に迫らなければなりませんからです。あなた方が、あらゆるものにとつて危険な大火山のように生きないかぎり、人生とはお金をかせいだり、経験を蓄えたり拒んだり、そのすべてに伴う悲しみを味わったりする以外の何もでもなく、なんの価値もないのではないのでしょうか？

人生の本当の目的を発見するためには、あなた方は、他の誰か　たとえば「悟り」に至つたとしても　によつて築き上げられた　古い、あるいは比較的新しい　すべての思想の伝統から自由にならなければなりません。結局、自分自身の飢えに関心を持たねばならないのは、飢えている個人なのです。もしあなた方自身が飢えていたら、他の誰かが十分に満たされていることを知つたところで何になるでしょう？　真理の発見にとつて不可欠のものは不満であり、伝統のまつたき欠如であり、精神を日々刷新し続けることであり、築き上げられてきたあらゆるものをけつして受け入れず、常に拒否し、常に熱心に、新鮮な気持で知ることを欲することです。あなた方が自分自身で真理　万人にとつての真理　に他ならない　生　を発見するためには、諸々の関わり合い、信条、宗教、神々といったすべての不要物から自由にならねばなりません。なぜなら、完成はあなた方自身の発達の極みにあり、真理は、腐敗から腐敗へと経巡つた果てに生み出される非腐敗性(incorruptibility)「腐敗しえない、あるいは腐敗を免れた状態・境地」の中にあるから

です。あなた方は、それゆえ、人間は、個人として絶対的に自由であること、人間の偉大さは次のことにあることを悟らなければなりません。すなわち、他の誰も彼を救うことはできない、他の誰もスピリチュアリテイに関して彼の助けになることはできない、彼自身が腐敗の過程にある時は、他の誰も彼を完成に至らせることはできない、ということに。

人間は絶対的、全面的、かつ完全に自由です。彼がそれを悟る時、彼はもはや神秘的な「未知のもの」、あるいは既知のものへの恐れを抱かなくなるでしょう。彼は常に熱心に実験し、真理の成就であるところのあの 生 の豊かさを体現するようになるでしょう。さて、あなた方は、自由であるがゆえに、自分自身に制限を加えていき、そしてこの制限によって、自分自身とあの究極目標たる完成との間の障壁を打破すべく努めていくのです。いったんあなた方がこのことを悟り、その意義を本当に理解すれば、明日にはとてつもない存在になるでしょう。なぜなら、あなた方は恐怖の魔手から自由になるからです。結局、あなた方のすべての神々、マスター、グルは、あなた方の無知ゆえに存在するのです。あなた方は、あなた方を助け、導いてくれる誰かに頼っています。が、あなた方が誰かに頼らなくなるやいなや、自分が絶対的に自由であることを知るやいなや、他の誰かの助けなしに自分自身を発達させるようになるでしょう。するとあなた方は、心地よい土地の中の本の木のように、微風を楽しむように厄介事に対処しながら、大空を背に、力強く、くつきりと立つようになるでしょう。

あなた方が恐れを抱くやいなや、人生のあらゆる混乱が自分のまわりに芽生え、宗教のあらゆる付属物が蓄積し、混乱がますますつのつていくということをこ存じないでしょうか？ あなた

方が自由になるやいなや、あなた方は経験を招き入れます。なぜなら、経験　この現象界での経験　によつてのみ、あなた方は成長することができますからです。現象なしには、生は存在することができません。あなた方は生を精神 (mind) と物質 (matter) に分けることはできません。それは一個の全体であり、ですから、それを理解するためには、主観的なものについての理解を踏まえつつ、客観的なものを経て成長しなければなりません。

これは、あなた方の知性を刺激するための形而上的のレクチャーではありません。経験は、それによつてあなた方が成長することができる唯一の方法であり、植物の根に力を与える土は経験以外にはありません。では、何が経験の目的なのでしょう？　目的なしには、経験は混沌としたものになります。自分がどこに行こうとしているのか知らなければ、あなた方は戸惑い、探求に迷い、疑いの念にとらえられ、恐怖が忍び込んできます。が、あなた方が確信を持ち、自分の発見について積極的に主張できるようになるやいなや、あなた方はあらゆる経験を招き入れ、それによつて自分自身を、非腐敗性をその土台とした素晴らしい住居にするのです。では、何が人生の目的でしょう？　あなた方の願望 (欲望) のドアをノックするこのすべての経験は、何を求め続けているのでしょうか？　あなた方がこの経験によつて求め続けているのは何なのでしょう？　願望は制限からの自由を求め、目的のある自由を求めています。単なる放縱 (licentiousness) をではなく、放縱は、水に投げ込まれ、風波にもまれる雑草のようなものです。制限を打破するために、願望はあらゆる経験においてそれ自体をかなえようとしています。願望は　生　であり、そして「本来は　生　から不可分の」個人としてのあなた方の中にあるその　生　は障害を打破すべく努めること

によつて、排除(exclusive)するかわりに、すべてを包み込む(all-inclusive)ようになるのです。なぜなら、腐敗は排除の中にあるからです。もしあなた方が、あなた方自身に他ならないその生の中にあらゆるものを含めれば、いかなる迷信もなくなり、したがっていかなる不和も争いもなくなるでしょう。

たゆみない努力によつて、すべての努力の終止が起こるのです。沈滞ではなく、それはまったく別物です。すなわち、あなた方は、個人として、生すなわちあなた方自身があなた方のまわりに置く制限を免れ、それによつて幸福と自由を見出すべく努め続けているのです。それがまさに、あらゆる個人が求めていることです。自己 あなた方、私 は、経験を通じて、非腐敗性に至ることを求めているのであり、そしてそれに至るには、目的を持って腐敗から腐敗へと経巡らなければなりません。なぜなら腐敗は、自己 あなた方 が経験において貧しい時にのみ存在するからです。自己が経験において豊かで、すべてを包み込む時、非腐敗性、すなわち完成があるのです。それゆえ、非腐敗性は理性(reason)と愛(love)の均衡(poise)なのです。完璧なバランス、いかなる動揺も知らない調和 それが真理なのです。

私は、私が言うことを皆さんに受け入れさせたいものではありません。私はただ、自分がその調和を見出し、その調和に至つたということを伝えているだけです。私はそれを、今日は晴天だと申し上げるように、あなた方に伝えているだけであり、そしてそれはあらゆる個人の手の届くところにあるがゆえに、あらゆる個人がその実現に至らねばならないと申し上げているのです。あなた方は、生への愛であり、生それ自体であるところのそのような真理に至るいかなる

道もありえないということがおわかりになるでしょう。なぜなら、その真理はすべての経験を包含しているからです。あらゆる個人　彼が最も教化された人間であろうと、最も教化されていない人間であろうと、最も知性的な人間であろうと、最も墮落した野蛮な人間であろうと　が「真理、　生　を実現する」という意味での「実現を遂げることが、人間の避けがたい目標なのです。

そしてそのような目標は特定の誰かの特別な所有物ではないので、あなた方がそれを見出すのは、特定の誰かの案内・教導によってではないのです。この土地「インド」は、他のどこよりもグル崇拜であふれています。あなた方は、救いは他の誰かを通して得られる、完成は他の誰かを崇めることによってのみ遂げられると考えておられる。これに反して、真理は、自分自身の完成によってのみ発見され、到達されるのであり、そしてその完成に至るには、あなた方は経験を豊かに持たねばならないのです。その目的のためには、あなた方はいかなる案内も教導も必要としません。いかなる宗教も、いかなる司祭も不要なのです。そういつたすべてを脇にどけなさい。そうすればあなた方は、私が言っていることの真理を悟るでしょう。あなた方のまわりのあらゆる埃の粒の中、あらゆる石の下、あなた方一人ひとりの中にあるもの、すなわち　生　それ自体を発見するために、隠遁する必要はないのです。

もしそれが目的なら、その時には当然あなた方は言うでしょう。「どのようにしてそれを達したらいいのだろうか？　何が到達の手段なのだろうか？」が、いかなる手段もないのです。なぜなら、あなた方が自分の目標に到達するのは、個人としてのあなた方の独自性 (uniqueness)、あなた方の特定の偉大さを発達させることによってだからです。すなわち、あなた方は目的を手段にす

るのです。が、あなた方は何をしていますでしょうか？ 現在、あらゆる個人は何をしていますでしょうか？ 彼は目的を知らず、ゆえに闇の中に飛び込み、より一層大きな混乱、より一層大きな迷信、より多くの独断的見解を生み出し、かくして無数の神々の殿堂^{パステル}建立に寄与しているのです。が、もしあなた方が疑いのかけらもなしに、自信と確信をもって知れば、目的がそれに至る手段を生み出すということを悟り始めたのです。もしあなた方が暗い場所にいる時、遠くに光が見えれば、それに向かつて進みます。あなた方は苦しみ、血を流し、足に切り傷を負うかもしれませんが、しかしあなた方に永遠の支えと目的についての確信を与えてくれる、あの一つの光めざして進んでいくのです。

経験が、その時、唯一の教師になります。するとあなた方は仲介者 *mediation* を望まなくなりま
す。あなた方自身の中に、絶対的に非個人的で、個人のものではなく永遠のものである、曇りな
い真理の鏡を刻々に確立していくからです。その基準によつてのみ、あなた方は自分の行為を判
断できるのです。あなた方自身以外の誰もあなたの行為を判断したり、あなた方を悲しみの境遇
に置くことはできません。その時、あらゆる出来事の中にある 生 があなた方の教師になり、
あらゆる人間があなた方のガイドになるのであつて、その方が、何やら神秘的な場所にガイドを
持つことよりずっと偉大で、はるかに素晴らしいのです。生きたガイド、すなわち人間自身の方
が、過去の死んだ教師たちよりずっと重要なのです。

完成において、経験の軌^{くま}からの解放においてそれ自体を成就させるところのあの 生 の目的
にとつて、あらゆる出来事、あらゆる思考の動き、人間の一拳一投足が真理への足がかりにな

ります。その時、あなた方は気づくようになり、絶えず注意深く観察するようになり、そしてあなた方は束の間のもとの永遠のものを引き比べて、自分自身の裁き手、自分自身の救い手になるのです。人生は限りなくシンプルになります。そして、すでに存在している混乱をさらにつのらせるかわりに、あなた方は秩序、確かさをもたらすのです。その時には、強者が弱者の上に立つことはなくなるでしょう。もしあなた方が永遠なるものから生きるなら、全世界が変わるでしょう。その世界から、あなた方は客観的世界で働かねばなりません。客観的世界から主観的世界へ、現象界から永続的世界へではなく、永遠なるものを知り、人生の目的を知った上で、あなた方はこの現象界で生きなければなりません。あなた方は現象界を逃れることはできないのです。あなた方が秩序をもたらさねばならないのは、ここであり、永遠なる真理を確立しなければならぬのはここであって、この現象界から離れてではないのです。

一例を挙げましょう。あらゆる人間の中には、いかに彼が弱かろうと、いかに野蛮だろうと、いかに教化されていようと、いかに知的であろうと、愛情というものがあります。それはあらゆる人間の心の中の芳香です。もしあなた方が不壊なる愛の実現過程をたどれば、それは何に行き着くでしょう？ 万人に分け隔てなく注がれ、あるいは放たれる太陽、あるいは花の香りのようになります。それが愛の実現です。もしあなた方がそれを知れば、たとえあなた方が限られた腐敗しやすい愛の手中に陥っていても、あなた方はその手を振りほどくべく努めることができるのです。それは、遠い未来においてではなく、今、その永遠なる仕方であらなければならぬことを意味しているのです。再び、悲しみに沈んでいる人にとっては未来も過去もありません。

彼は自分の悲しみを今癒すことを欲するのです。あなた方があの永続的なもの、いかなる不和も持たないもの、相対的ではないもの、いかなる迷信も持たないもの、真実なるもの、理性と愛の調和を知る時、その永遠性からあなた方は働かなければならないのです。あらゆる小さな出来事があなた方を強くし、より偉大な真理、あの永続的な幸福への足がかりの役を果たすでしょう。

III

この世にまったく新しいものは何一つありません(There is nothing new under the sun)。あらゆることが考え抜かれ、あらゆる表現の仕方が思考に与えられ、あらゆる観点が示されてきました。これまで言われてきたことは常にこれからも言われるでしょう。ですから、通常の観点からは何一つ新しいことはけっしてありえないでしょう。あなた方はただ表現をいろいろに変え、異なった言葉を用い、異なった含意を持たせること、等々ができるだけです。が、あらゆるもの、あらゆる考えを自分自身で吟味することを願う人にとつては、あらゆるものは新しくなります。もし言葉の単なる錯覚を超え、思考の表現を超え、すべての哲学や聖書を超えようとする願いがあれば、その実験において、あらゆるものは新しく、新鮮で、生き生きとしたものになるのです。

今朝私が示唆しておきたいことは、理解するためには、

何をかは重要ではありません、

ちつぽけな理解、利己心、義務、罪、悪、善といったあらゆるものから全面的に自由にならなければならぬということです。その時にのみあなたは、指し示されたものの十全な意義を理解し、正しく評価し、判断することができるでしょう。これは、あなた方が自分の精神を完全に否定的な状態、空っぽにしなければならぬという意味ではありません。その正反対です。あなたは、率先して吟味検証していく精神、抑圧から自由な精神を持たなければなりません。過去一、二年間、私はこのことを再三再四申し上げてきました。が、見たところ、伝統という観念は一定の儀礼や儀式にのみ適用されているようです。私が意味しているのはまったくそのことではありません。私が「伝統」によって意味しているのは、数千年の間に、あるいは新たに確立された一組の思考習慣(a set habit of thought)、見解(a point of view)のことです。

生 の十分な意義を理解するためには、いかによくあなた方が古代文献に通じていようと、あるいはなんの意味もない諸々の心地よい知的上着をいかにまとっていようと、伝統的な精神、伝統的な考え方でもってそれに取り組むことはできないのです。あなた方が皆不確かであるがゆえに、途方に暮れているがゆえに、あなた方はすでに存在している混乱をさらにつのらせてしまっています。私はとても真剣に話しています。なぜなら、私にとってこれは非常に真剣な事柄だからです。もしあなた方の精神が、偏見や いかにかろうと比較的にかろうと 伝統的な、狭い人生観でいっぱいなら、ここにやって来て他の誰かの考えを吟味することは単なる時間の無駄というものです。

あなた方は、生 は、みずからを表現しつつ、刻々に変わっていくことを発見するでしょう。

その表現は同じかもしれませんが、経験は絶えず変化していかねばなりません。もしあなた方が「生」を理解したければ、無数の聖書を読んだがゆえにもちろんのことと思っている伝統的な考え方、伝統的な観念、確信ですていでできている精神でもってそれに迫ってはならないのです。私はあなた方がそういったすべての既成の法から自由になり、自分自身の力で考えていただきたいのです。あなた方が悲しみに沈んでいる時、他の誰かが考えることが重要でしょうか？ あなた方の願いはその悲しみから自由になることです。で、あなた方はすべての聖書を読み、一定の宗教的考え方に従うかもしれませんが、しかしそれらはその悲しみの刺すような痛みを取り除くことも、目的についての確信を与えることもないでしょう。それは、あなた方が聖書などのすべてを脇にどけて、ここであなた方にさし向けられるあらゆる質問、あらゆる考え、あらゆる観点を、それ自体に固有の価値のゆえに、あなた方自身の力で吟味検証することによってのみ可能なのです。あなた方が自分自身で確かなものを発見した時、あなた方はもはやいかなる信念も、宗教も、ドグマも、神々も、マスターも、グルも持つ必要はなくなるのです。なぜなら、あなた方がしようとしていることは、各人の中にあるあの「自己」を、その最高の非腐敗性「腐敗しがたい状態・境地」へと発達させることだからです。私は、あなた方全員が「これはあらゆる経典でこれまで言われてきたことです」と言っただろうことを知っています。が、困難は、それを実践する人がこくわずかしかないということです。

目的へのあの絶対的確信を持つためには、あなた方はすべての疑いを脇にどけて、新規時き直しにしなければなりません。それが重要な唯一のことなのです。人生への疑い、自分の考え、行

動、完全さへの疑いは恐怖を生み出します。恐怖によつてあなた方は気弱になり、そして弱さからあなた方は信念やドグマや宗教や神々、無数の松葉杖やつつかい棒を作り上げるのです。ですから私がまず最初にしたいことは、あなた方が自分自身、自分の考えについての確信を抱くようにさせることです。が、これはあなた方が私の考えを受け入れるべきだということではなく、むしろ、あなた方自身の人生観を絶対的で、確かで、肯定的にすべきだということです。

経験から生まれた自分の知識において確固たる人には、いかなる恐怖もありません。彼は、永遠なる基準を確立したのです。人間 すなわち、個人 は、すべての変化を通じて、絶対的に非個人的で、公平無私な基準 偏らないガイドの役を果たす基準、特定の誰かのものではない基準、常に彼と共にあり、それによつて彼が誰にも、いかなる伝統にも、神々にも、信念にも、グルにも頼る必要がないようにさせる基準 を探し求めているのです。あなた方は、自分が良いと思つすべてのこと、自分が感じるすべてのことを、その本当の色で映す鏡、自分の偏見、気まぐれに従つて像が歪まない鏡 一定した、永久的な基準 を立てることを欲しているのです。あなた方は、個人の基準であり、かつ普遍的な「万人の」基準であるそのような基準を見出すべく努めなければなりません。私は、個人ならびに全体としての 生 に適用できる、そのような基準があると説明します。いったんそのような基準を確立すれば、あなた方は自分が自分自身の ^{マスター}師であるということ、自分が全面的に自分自身に責任があるということ、他の誰も外側からあなた方を助けることはできないということ悟るでしょう。そのような基準は、いったん実現されると、人間を自由への道へと踏み出させるのです。

では、何が個人的および普遍的な基準なのでしょう、何がこの目標なのでしょう、何がこの生の実現なのでしょう？ いったんあなた方がそれを知るやいなや、あなた方はその悟りから歩むことができます。すなわち、あなた方は目的を手段にすることができのです。自分がどこに向かつて行かなければならぬかをあなた方が知るやいなや、到達の手段はほとんど重要ではなくなるのです。

川は絶えず、倦むことなく海への最短距離を探し求めています。それがその目的です。が、海に到達するには、それは大量の水を湛えていなければなりません。さもなければ、それは砂の中に消えてしまつてしまうでしょう。そのように、人間の生は、それを導き、それを自由で永遠なるもの、私が「解放」と呼んでいるものへとせきたてるどころの大いなる力を与えてくれる経験を、絶えず求めているのです。もしあなた方が、解放、愛と理性の均衡、自己、精神と心の非腐敗性「腐敗しえない、あるいは腐敗を免れた状態・境地」の実現というあの目的を持てば、それが私にとつては永遠なる基準なのです。

私は、あなた方が私と同じように確信を持つてほしいのです。私と同じように平和で、平静で、確固不動の確信を持つてほしいのです。あなた方が私の話を聞き、私があなた方に話をしに来ているのは、まさにそのためです。もしそれが目的なら、毎日毎瞬あなた方のドアをノックする経験は価値を持つのです。願望（欲望）は常に経験を求めていきます。なぜならそれがその実現の仕方だからであり、ですからあなた方はそれを殺すことはできないのです。もしあなた方が目的、目標、基準、真理すなわち 生、それ自体 を持てば、その時にはあらゆる経験は、川に大量

の水を加え、それをその実現へとせきたてる水滴のようになるでしょう。それは、外からの助けの問題、あるいは救い(salvation)　なんといや言葉でしょう　のため他の誰かをあてにすること、あるいは自分の満足、幸福のために他の誰かに頼ることの問題ではないのです。

私は、あの真理　解放であり、理性と愛の均衡であり、自己の非腐敗性であるところのあの真理　に到達したと言明します。こう申し上げているのは、あなたが私に従うべきだという意味でも、誘惑としてでもなく、ただ非個人的に、太陽が輝いていると言つのと同じ意味合いです。一人の人間が到達したがゆえに、万人が到達することが可能なのです。自分が囚人であること、まわりを生制限の壁に囲われていることにあなたが気づく　で、それに気づくことは困難ですが　やいなや、そのような気づきの瞬間に、あなたは自由になり始めているのです。あなた方は絶えずこれらの障壁からの出口を探し求め、壁を打破していくのです。

経験は常に、あなた方がそれを利用し、それによって自分の制限を打破し、自由になるように切望し、待ち受けています。あなた方が自由ではないがゆえに、なんの祝福も平安もなく、あるのはただ絶えざる葛藤だけで、ゆえにあなた方が何をしようと、世界にすでに存在している混乱、混迷をかえってつのらせるだけなのです。

解放としてのあの真理に到達するためには、「その妨げになっている」あらゆるものを一掃しなればなりません。その時あなた方は絶対に単独(alone)　思考において単独　であることが必要であり、そしてその観点から、到達の手段を見つけ出さねばなりません。勇気を持つこと、断固たる決意を持つことが必要なのです。あなた方はいずれは　明日、あるいは一万年後には

そうしなければならぬでしょう。なぜなら、制限を負っている人の心を悲しみが絶えず苦しめており、そして悲しみが大きければ大きいほど、それだけ到達の確度は高くなるからです。悲しみと喜びは同じ「もの表と裏」です。光と影のように。いずれかを避けられないようにし、その両方の経験を利用しなさい。「真理の」到達という花を咲かせる土壌として。そうすればあなた方は確信を得、精神と心の完全性を手に入れられるでしょう。

あなた方は、言うべき何か新しいものを私が持っているかどうかを発見するためここに参集された。が、発見するためには、あなた方は新鮮な思い、探究心、見出そうとする熱意と情熱を携えて来なければなりません。あなた方自身のものではなく、ゆえになんの価値もないあの諸々の聖書や伝統からの無数の質問を、ではなく。私は、行く先々で、ヨーロッパであれ、ここ「インド」であれ、アメリカであれ、人々がこう言うのを聞いてきました。「そのことは聞いたことがあります。」「仏陀はそう言いました。」「私たちのマスターがそうおっしゃいました。」それらすべてを脇にどけて、自分自身で考えてみなさい。それが重要なことなのです。あなた方が直面しているのは、あなた方の悲しみなのです、他の誰かではなく。あなた方が世界の問題を解決するのは、あなた方自身の問題を解決することによってであつて、他のいかなる手段によつてもないのです。あなた方自身が「真理に」到達することによつて、自己を浄化することによつて、あなた方は世界に平和、調和、秩序、平安をもたらすことができます。ただ単に聞くことに甘んじていないで、あなた方自身を完全に自由にし、非本質的なあらゆるもの、伝統的なあらゆるものにとつて危険な存在になるべく決意し、それによつてあなた方自身のためだけ

でなく、あなた方が出会うあらゆる人のために確固たる足場を築くようにしてください。

IV

適切な答えを受けるには適切な質問をしなければならぬということ、まず申し上げておきます。適切な質問は、あなた方が本当に頭を悩ませている「考え込んでいる」時、本当に探究し、本当に発見したいと思っている時に浮かんできます。単なる表面的な質問、知的で理屈っぽい質問にはなんの価値もないのです。あなた方がここにおられるのは、私が言っていることに何らかの価値があるかどうか、そしてもし価値があれば、その時にはそれが目的を持っており、あらゆる人の人生にとって必要不可欠であるかどうかを発見するためです。そのためにあなた方は私に質問しているものであり、その同じ精神でのみ私はお答えするのです。私がここにいるのは徴候シグナムを議論するためではなく、すべての悲しみの原因を検証することであり、その検証は、もしも確実におこなわれれば、すべての徴候への適切な治癒をもたらすでしょう。あなた方が医者にかかれれば、彼は徴候について尋ねるでしょうが、もし彼が賢い医者なら、彼は病気の徴候ではなく、原因を直すでしょう。同様に、真理を理解すべく努める際には、まず私たちは本質的なものを扱い、それに基づいて徴候の直し方を考え出すでしょう。病い、特に不幸と悲しみという病いは、単に徴候を扱うことによって直すことはできません。原因を理解するためには、徴候を十分に調べ、非

本質的なものを取り除き、絶えず大いなる気づきと忍耐力をもって、癒してくるであろうあの本質的なものに固執しなければならぬのです。ほとんどの人にとつての困難は、あまりにも多くの非本質的なものに取り囲まれているので、彼らがそれらにとらわれてしまい、そのため、本質的なものを受け入れ、何が本質的かを発見するには大いなる叡智が必要になるといふことです。

質問 人は、自分自身が解放を遂げないかぎり、本当に人助けをすることはできないのでしょうか？

クリシユナムルティ（K） それは、「到達の過程にありながら、人は愛し、苦しむことはできないのでしょうか？」と尋ねているようなものです。あなたは到達、解放、を何かずつと遠くのもの、未来に得られるべき何かにしているのです。さて、真の求道者（seeker）にとつてはいかなる未来もありません。もしあなたが飢えていれば、「食事は明後日取ることによしよう」とは言いません。解放は遠い未来に達成されるべき何かではありません。それは今、あなたがいるところにあるのです。それはあなた自身なのです。到達の過程に真理はあるのであつて、最後にはないのです。その過程であなたはあらゆる人 すなわち、生 と出会い、そしてあなたのまわりのこの生を吸収同化し、放棄し、理解することによつて、あなたは解放を見出すのです。人助けという考えは生得的なものです。もしあなたが親切なら、あなたは人助けをします。もしそうでなければ、あなたは人助けをしません。「この質問は」あなたが人助けを条件にしていることを示しています。が、もしあなたが善良なら、あなたは自動的に助けになるのです。バラが咲く時、

それは「私は周囲に美を与えよう」とは言いません。与えざるをえないのです。バラにとってはそれは無意識の過程ですが、私たち人間にとつてはそれは意識的にならなければなりません。あなたが美しくなるやいなや、あなたは自動的に助けになり、そして美を求めることによって、あなたは他の人々の助けにならざるをえないのです。本質的なポイントは、あなたがあらゆることにおいて、あなたの外見において、あなたの希望において、あなたの信念において、あなたがおこなうあらゆることにおいて、美しくあるべきだということです。その企てにおいて、あなたは自動的に助けを与えることになるのです。が、それがあなたが美を求める理由であつてはなりません。あなたは美を、それ自体の固有の価値のゆえに求めなければなりません。さもなければ、あなたは美を条件付きのもの、人助けによって達せられるべきものにしてしまうのです。

質問 人助けは、真理到達の先行条件なのではないでしょうか？

K それは、もし私が答えれば誤解されかねない質問ですが、私はただこのようにだけ答えることができます。もしあなたが自分自身の中に非腐敗性をもたらしつつあれば、あなたは誰かの助けにならざるをえないのです。それ以外の道はないのです。

質問 もし私が到達を願えば、外側からのいかなる助けもなしに、ただちに到達できるのでしょうか？

K 当然です。あなた方は皆飢えているではありませんか？ あなたがたは皆苦しんでいる

のではありませんか？ あなた方は皆悩みを持ち、嫉妬・羨望に駆られ、心が動揺しているのではありませんか？ あなたが静穏と静謐をもたらずやいなや、みずから真理を確立するのです。が、そのためには、あらゆるものを吟味検証するために必要な衝動、情熱、関心、気づぎを持たなければなりません。スピリチュアリテイ、調和の実現は、万人に開かれています。それは万人にとつての太陽のようなものです。が、どうそれを利用するかは個々人にかかっています。太陽が輝いている時、蓮はその愛らしい蕾をふくらませ、雑草はその刺とげを出します。それは太陽の責任ではありません。同様に、解放、真理は万人に開かれています。それは個人に、また、彼が内部でいかに情熱的に、熱心に、しきりに、熱情的にそれを発見しようとしているかにかかっているのです。

質問 あなたは、人間は絶対的かつ無条件に自由であり、そしてまさに自由であるがゆえに、制限されるとおっしゃっています。いかにして彼の制限が彼の自由の結果であるのか、説明していただけませんか？

K 私は、人間は自由であるがゆえに、制限されると言いました。もしあなた方が自由でなかったら、世界にこれほどの混乱を引き起こすことも、あなた方自身の内部にこれほどの混乱を引き起こすこともないでしょう。苦しみ、悲しみ、葛藤は、制限によって生じます。到達の過程は障害を打破することです。あなた方は、自由であるがゆえに、障害を打破し、拡大し、成長していくのです。

が、もしあなたが自由でなく、あなたを教導しているある超人的存在があり、あらゆる個人の生活の面倒が見られたら、世界にはなんの混乱も、制限も、葛藤もないでしょう。あらゆることが計画され、管理され、支配されているので、あなた方は、なんのトラブルもなしに、子供のようにならされ、深淵を越え渡らせられるでしょう。が、あなた方はそのようではなく、自分の願望を持っていません。そしてこれらの願望は絶えず制限に直面し、そして願望は、それ自体に加えた制限の壁を打破すべく奮闘するのです。もし囚人が自分は囚人ではないと自覚すれば、彼は監獄の壁を打破していくのです。あなた方は自分が自由であることに気づいていないので、恐れているのです。あなた方がこういったすべての宗教、迷信、信念、教義といったものを持っているのは、自分を恐怖心から守るためです。これに反して、もしあなたが、個人として、自分が絶対的に、完全に自由であることに気づけば、あなたは恐れなくなり、あらゆることが明瞭になります。あなた方は成長し、果敢になり始め、そして避難場や慰安や神々を考え出さなくなります。あなた方は、外部からの救済をあてにしなくなります。あなた方は、ガンジス川での沐浴といった一定の伝統は取り除き、それらをその愛好者たちに委ねるかもしれませんが、しかしあなた方は、恐れと不安を抱いているがゆえに、自分の首のまわりに自分自身の特定の伝統を巻き付かせているのです。

もしあなたが確信を持ち、自由であるなら、あなた方は、独特であり、ゆえに他の誰によっても踏みにじられことのできない、あなた方自身の道を切り開くにちがいありません。真理への共通の道というものはないのです。ですから、求道者、人間は、各人自身の道を作り出すことが

必要です。たとえあなた方がそれを追求しなくても、それは重要ではありません。それは向こうからやって来て、悲しみ、苦しみによってあなた方のドアをノックします。追求のことを気にし、それによってあなた方自身を人類、生から切り離さないようにしなさい。あなた方が、悲しみは制限の中にあること、そして、自由であるがゆえにその制限を打破することができるということを知るやいなや、あなた方は強く、公正で、果敢になり始めるのです。するとあなた方は信条、迷信、信念の制限に陥らなくなるのです。

あなた方は、これまでの三年間同様、私に傾聴しており、今後十年間さらにそうし続けることでしょうが、しかしあなた方はこのすべてに本当は関心がなく、それはあなた方にとって真剣な事柄ではないのです。もしあなた方が何であれ一つのことを実践しなければ、毎日聞くことが何の役に立つでしょうか？ それが何かは重要ではありません。私が言っていることは、未開人あるいは高度に進化した人には容易であり、理解しやすいでしょう。高度に進化した人は単純さ（simplicity）を理解し、そして単純さは無尽蔵（inexhaustible）です。未開人も同様です。なぜなら、彼は心が込み入っていないので、たった今学び始められるからです。が、この両者の中間にある人にとっては人生は困難です。なぜなら彼は、極端に走ることを望まないからです。そしてそこに凡庸、思考の狭量、人生の狭さ、無関心があるのです。

なぜあなた方が毎年ここに聞きにやって来るのか、それにどんな価値があるのか、私にはわかりません。正直に言わせていただくなら、もし本当に真剣に学び、理解しようとする気組みがあ

り、その思いで燃えている人が二人、あるいは一人でもいたら、無関心な人が数千人いるよりはるかにましでしょう。

もし、個人としてのあなた方が自分は絶対的かつ無条件に自由であることを悟らなければ、あなた方は複雑なものを作り上げざるをえず、そして非本質的であるそれらの複雑なものにあなた方は囚われてしまうのです。私のような人間の役目は、あなた方が囚われていることを指摘し、それによってあなた方自身の力で障害を打破できるようにすることです。私がそれらの障害を打破することはできないのです。なぜなら、あなた方は自由だから「打破するのは、自由な存在たるあなた方の仕事だから」です。まさにそこに人間の力、潜在的自由があるのです。彼は、導かれ、訓練され、何をすべきかを告げられ、自分自身の外部の力に依存すべき動物とは違うのです。あなた方はただちに言うでしょう。「マスターが存在するのではないでしょうか？ 人類にとつての計画があるのではないでしょうか？ 等々。」神々、マスター、グルは解放にとつて不要である。それが私が言いたいことです。もしあなた方が苦しんでいたら、もしあなた方が本当に飢え、「飢えを満たそうとする」燃えるような思いに駆られ、切望していれば、その時には私が言っていることは価値を持つでしょう。もしあなた方が慰めを求めているのなら、万事休すです。古い神々を持つかわりに、あなた方は新しい神々を持ち、古いグルを持つかわりに新しいグルを持ち、古い伝統を持つかわりに、新しい伝統を持つことでしょう。

質問 人間の進化が達人たち (gurus) のヒエラルキー (階級) によって導かれ、助けられてお

り、また彼らの何人かはその階級の中で地位を占めるべく訓練を施すことのできる弟子を取るといふのは事実でしょうか？ もしそうなら、それがスピリチュアルな完成への道なのではないでしょうか？

K 神々、達人といったものは、自由めざしての個人のスピリチュアルな成長の役には立たないと、私は言明します。 生 はあらゆるところにあり、そしてあらゆる小さな出来事の中に経験の可能性が潜在しています。 あなた方はそのすべてを無視して、どこか他の場所を探し求めるのです。 なぜなら、あらゆる問題に気づき、積極的に迫り、それらを吟味検証することは困難だからです。 それには集中が必要であり、目的をめざしての熱狂「一意専心」が必要なので、あなたは腐敗と完成との間にある深淵を飛び越えるために、外側からの助けを求めるのです。 真理を理解するためには、あなた方は本質的なものをめざさねばなりません。 で、「達人たちのヒエラルキー」といったあなたが尋ねていることはいずれも非本質的なことなのです。 ただし私はあなたが私に同意することは望みません。 それは災いに他ならないでしょう。 私が望んでいるのはあなたの方が理解することです。 なぜなら、同意したり、特定の人格者に心パーソナリティを奪われたりすることにはなんの価値もないからです。 もしあなた方が私が言っていることの真理 その本当の意義を理解すれば、あなた方は生きざるをえなくなるでしょう。 そして生きることの方が、誰かに同意するよりはるかに偉大なことなのです。

質問 達人たちは存在しているのでしょうか？

K それは私にとっては非本質的なことです。私はそれには関心がありません。私の関心は、誰かが存在するかどうかにはなく、あなた方が悲しみに沈んでいるかどうか、飢えているかどうか、困難に陥っているかどうかにあるのです。達人たちの存在になんの価値があるのですか？ 私は質問に答えることを回避しようとしているではありません。私にただ、そのことには関心がないと言っているだけです。彼らが存在していることを私は否定しているではありません。進化においては、未開人と文明人との相違があるように、相違があるにちがいありません。が、監獄の壁の内側に閉じ込められている人にとって、どんな価値をそれは持っているでしょう？ 達人たちはいるかもしれませんが。神々はいるかもしれませんが。が、あなた方が制限の壁を打破しないかぎり、彼らあるいはそれらはあなた方にとってなんの助けにもならないでしょう。私にただ、そう言っているだけです。あなた方が進化と呼んでいる経験の総体を私が否定するとして、愚かなことでしょうか。

あなた方は、あなた方自身のことよりも、あなた方の前方にいる人の方をより気にかけているのです。あなた方は、あなた方自身やあなた方の隣人ではなく、ずっと遠くの誰かを崇めようとしているのです。

質問 『大師の御足の下に』^{マスタ}の中であなたは、達人たちの一人から指示を受けていらつしやる。それについてどう思われますか？ それは完成、幸福に至ることではないのですか？

K 指示はあらゆるものの中に存在しています。が、もしあなたが経験を吸収同化し、理解

し、それと闘う力を持っていなければ、他の誰もあなたに教えることはできないのです。あなたは再び、本質的なものと非本質的なものを混同しているのです。本質的なこととは、人間が自由であるべきだということです。彼は本来的に自由であり、で、まさにその彼の自由によって、願望が経験を追求する過程で彼のまわりに置いてきた制限を彼は打破すべきなのです。マスター（大師）、達人たちはいるかもしれませんが。私はそれを否定しません。が、個人としてのあなたにとってどんな価値をそれが持っているのか、私には理解できないのです。

「聴衆からの」声 正しい軌道に乗せてくれます。

K あなた自身以外の誰も、あなたを正しい軌道に乗せることはないでしょう。あなた自身の完成以外のどんな理想があるのでしょうか？

声 他の人の完成です。

K いいえ。自分自身の食べ物を求めている飢えた人 彼は他の誰かの満腹によつては満たされません。生 は他の誰かを頼りにする過程ではありません。生 は、個人によつて彼自身の独自性を伸ばすことによつて 発達させられねばならないのです。個人は彼自身を頼りにし、彼自身の行為を判定するためのあの公平無私な基準を開発しなければなりません。で、その基準はけつして他の誰か いかにも彼が高位にあるか、あるいはいかに彼が進化しているかは重要ではありません によつては与えられないのです。あなた方にはマスター、達人がいるかもしれませんが、しかしあなた方は腐敗しやすく、ゆえに不幸であり、混乱をもたらすのです。

ですから、あなた方が個人として苦しんでいるがゆえに、あの平静と静謐の状態、およびまったくの動揺の欠如をもたらすことができれば、その時には到達の過程にあると言えるでしょう。

質問 「非腐敗性」によつてあなたが意味しているのは、身体的（物質的）、感情的、精神的、有感覚の根絶のことだと解してよろしいでしょうか。それとも、それより多くのことを意味しているのでしょうか？

K それおよびそれ以上のことを意味しています。あなた方は身体的（物質的）、感情的、精神的、有感覚を少しも持たないかもしれませんが、もしあなた方が、私が説明したあの愛と理性の均衡、真の創造性を持たなければ、あなた方は腐敗の魔手を逃れられないのです。

あなた方は利己性 (selfishness) を殺すことはできません。利他性 (unselfishness) は殺せませんが、相違がおわかりでしょうか。真に利己的であるようにしてみなさい。そうすればあなた方は神になるでしょう。結局、あなた方は「私」、すなわち「自己」を殺すことはできないのです。が、あなた方は自己を、それがあらゆるものを包含するような状態 私には「状態」という言葉を、制限付きでなしに用いています。まで発達させることはできません。あなた方は自己を殺すことはできません。それはまさにその本質において主張であり、そして完成めざして登っていく過程で、その主張の本質が悲しみとしてあなた方に戻ってくるのです。もしあなた方が人生の目的を知れば、あなた方の主張はあの究極のもの 解放 によつて染められ始めるのです。「もしあなた方が真に利己的なら」と私が言う時、私を誤解して、私が利己性を唱道していると言わないで

ください。私は、利己性を唱道しているのも、利他性を唱道しているのでもないのです。私は、自己の発達は利己性でも利他性でもない、だからどちらも脇にどけなさいと言っているのです。もしあなた方が、あなた方の「自己」だけでなく私の「自己」でもある 生 に関心があれば、その時には自然に、意識的あるいは無意識的に助けになるでしょう。肝要なことは、あなた方自身を自己の浄化に携わらせることです。あなた方は皆自己中心的存在であり、すべての人間は自己中心的存在です。が、あなた方が自己を変容させ、一新させるほど極端な仕方では、自己中心になりなさい。他の誰かを犠牲にして自己中心のようになってはならないのです。

質問 苦痛な経験を味わうことなしに、持続的に正しく考え、絶えず注意深く見守ることによって、非個人的になることは可能でしょうか？

K あなたは、あなたが行く手を阻んでいるものを片づけ、あなたを完成に至らせてくれるであろう、甘いスピリチュアル薬を求めているのです。快樂は涙によつて束縛され、そして到達するためには、あなたは泣き、そして笑わなければなりません。それ以外の道はないのです。あなたは泣くことを恐れ、いつも笑うことを欲しているのです。が、よく見てみれば、笑いと涙は同じものであること、同じものの両極端であることがわかるでしょう。ですから、もしあなたが笑いによつて悲しみを理解し、悲しみによつて笑いを理解すれば、どちらか一方だけがあるわけではなく、ともに 生 の表現であることがわかるでしょう。真に偉大な画家、大画家は、葉のあらゆる動き、色のあらゆる変化、あらゆる形を絶えず見守り、その不断の観察から彼は、あの永遠に生き

続けるであろうものをカンバスに描き出すかもしれません。それと同じ関心をもって、あなたもあらゆるものを見守り、観察し、あらゆるものに熱中し、それによってあなた自身の上に永遠性を描かねばならないのです。

質問 あなたは、真理に至る道はないと言うことによつて、何を意味しておられるのですか？もし道がなかったら、どうやってそこに行くことができるのでしょうか？その道は理解の道だと言つたら間違いでしょうか？

K 真理は、生であるところのあの自己の調和です。それにはいかなる道もありえませんが、自己の発達にはいかなる道もありえないのです。あらゆるもの、あらゆる経験、自己の内に存在するあらゆる感情、あらゆる運動、あらゆる影、あらゆる悲しみ、あらゆる快楽、それが魂(soul)の成長を促すのです。それにはいかなる道もありえません。再び、あなたは私に尋ねるでしょう。「が、私たちが告げられてきた道についてはどうなのでしょう？」私はそれには関心がありません。人間は自由です。どうかその基礎から出発してください。そして彼は自分の自由を、自分自身の独自の仕方で開発しなければならないのであつて、他の誰かの道をたどることはできないのです。私はあなた方が私に同意することは期待しません。が、どうか偏見を交えずに、私が言っていること、魂の発達のためにはいかなる道もありえない、を吟味してみてください。もしそれが真理なら、私はずつであると言明します。そしてそれは自由であり、愛と理性の均衡なのです。その時には真理は道なき土地であり、そしてもしあなた方がいずれ

かの道に沿ってそれに近づくな。それは真理ではないのです。真理はすべての道を拒むのです。なぜなら、道をたどる時、あなた方は制限を通じてそれに近づくからです。

会場からの声 真理を悟った後、それは道なきものになるのであって、それ以前にはないと思つたのです。

K 真理を悟った後、それは道がなくなるものではありません。あなた方が道を作り上げるのは、あなた方が制限内にあるからです。

会場からの声 それはすべての道の究極であるべきではないでしょうか？

K いや、私があなた方の道にとらわれることはないでしょう。それはすべての道の究極ではありません。すべての道は制限であり、したがって私はその言葉を使いたくありません。あなた方の内面のあらゆるものは制限されており、でもしもあなた方が制限を通じて探求に取り組みなら、あなた方は無制限のもの（制限を超えたもの）を理解することはないでしょう。が、あなた自身の独自性、あなた方自身の理解を伸ばすことによって、あなた方は到達するでしょう。で、万人の自己は「本質において」同じなので、万人の理解は同じでなければなりません。

会場からの声 では、各人が彼自身の道を持たねばならないのですか？

K 各人が彼自身の道、彼自身の独自性を開発しなければなりません。各人のためにあら

かじめ布かれた道があると私が言うことはできないのです。もしそのような道があるなら、それはあなた方がその道の囚人であることを意味してしまうからです。

会場からの声 彼はなんらかの代行経験(vicarious experience)を持つことはできないのでしょうか？

K できません。ただし、もしあなたが感情においてスピリチュアルな程度まで発達しており、大いなる叡智を持つていれば、が、自己欺瞞に陥らないように注意深くしなければなりません。真理を見出すには、諸々の制限を打破しなければなりません。

V

これがこのキャンプでの私の最後のトークですので、これまで話してきたことを要約したいと思います。私の話にも思考を集中させて応えるかどうかはあなた方の問題です。考える過程で変化が遂げられ、精神が絶えず刷新されなければなりません。毎日が新鮮で新しいように、生の過程 その中に真理があるのであって、他のどこにでもないので、を理解するためには、絶えず変化し、絶えず探求し、油断なく見張り続ける精神を持ち、いかなる出来事も、それがあなた方にその十分な豊かさを与えることなく過ぎ去ることを許さないうようにしなければ

なりません。

私が話していることは万人の願いであると、私は言明します。私は何か神秘的なことについて話しているのでも、あなた方に啓示(Revelation)を与えようとしているのでもありません。なぜなら、啓示は宗教と化するからです。真の理解なしに神秘が関わってくるやいなや、恐怖が起こるのです。もしあなた方が純粹な状態にある　生　を吟味してみれば、それがあらゆる要求に応えてくれること、あらゆる必要を満たしてくれること、あらゆる苦闘の十分な意味をあなた方に与えてくれることがわかるでしょう。

そのような境地に至るには、あなた方は、何が起ころうと、いかなる境遇の下であろうと、確固としていなければなりません。私がある方の前に提示するものはあなた方自身のものとなり、したがってその確信がけつして揺るがされないようになければなりません。あなた方の顔、鼻、目が独特のものであることを他の誰も否定することはできません。あなた方はそれらを熟知しています。あなた方は毎日、髪を櫛ですく時、それらを見つめます。あなた方は絶えずそれらを見つめ、鏡の中を覗き込み、で、誰もあなた方が知っていることへのあなたの確信を揺るがすことはできません。同様にしてあなた方は、私が言っていることがあなた方のものであることを、なんの疑いもなしに、確信し、知らなければなりません。さもなければ、誰かがやって来て、あなた方を狼狽させかねないからです。あなた方が単に知的な確信　それはなんの価値も持っていない　ではなく、結果として日常生活で表現される、そういう確信を持つ時、その確信は即座に価値を持つのです。その確信はあなた方自身のものとなり、誰もそれを取り去ることはで

きなくなるからです。それはあなた方自身の経験であり、あなた方自身の悲しみ、あなた方自身の追求の結果です。私は何も案出してはいません。私はただ、あなた方全員の中に隠れているものを言葉で表現しているだけです。それは 生 から離れているのではなく、 生 と結びついていなければなりません。なぜなら、その 生 つまり、あなた方自身の 調和、およびその調和の実現の中に、真理の過程があるからです。その調和、その均衡の獲得、自己のその非腐敗性の実現の中に、万人が、あなた方全員が、意識的にあれ無意識的にあれ、絶えず探し求めている真理があるのです。

ここにはいかなる啓示もありません。どうかこのことを理解してください。なぜなら、あなた方が神秘の要素、あばかれる何らかの秘密の要素を持ち込むやいなや、ありとあらゆる誤解、迷信、あなた方自身の外側にあり、あなた方の依存の対象となる何かが起こり始めるからです。私が言っていることは、そういったものとは無関係です。私は、あなた方全員が表現し、理解すべく苦闘している、 生 の過程を説明しているのです。もしその理解があなた方のものになり、もしあなた方が直観的にそれをあなた方の人生の部分として感じれば、その時にはたとえ一千人が来ようとあなた方を揺さぶることはできませんし、いかなる経典や聖書もあなた方の知覚を改変させることはできないのです。

あなた方は、年がら年中自分自身を真実ではないもの (unrealities) で取り囲んでいます。あなた方は真実ではないものの中で生きており、そしてそれは闇であり、無知であるがゆえに、あなた方はその闇を照らすための光を案出するのです。叡智の持ち主の目的は人々を取り囲んでい

る様々な錯覚を指摘し、彼らがそつした錯覚を打破するのを助けることです。それが私の目的です。文明 (civilization)　それを私は文化 (culture) の「外面的」表現と、また文化を自己のかけがえない美と定義しています」参考 参照　がますます複雑になるにつれて、真実ではないものが増えてきます。それらに人間は囚われ、そしてそれらの闇の中で彼は光を求めるのです。彼は真理を見出すことを欲するのです。が、見出すことはできません。なぜなら真理は、それ自体の性質と相容れないかなるものもはねつけるからです。

どうか頭をうなずかせないでください。私はあなた方の同意を求めません。私が求めているのはあなた方の理解です。あなた方が理解するやいなや、あなた方は生き始めるのであり、その方が同意するよりもはるかに偉大なのです。だからこそ私は、私が言っていることの意義をあなた方に把握してもらいたいのです。私の目的は、あなた方にとって真実となつた真実ではない物事を指摘し、あなた方にそのことを理解してもらつことです。私はあなた方に強いようとしていたのではなく、むしろ、あなた方自身が真実ではないものをそれと悟り、それによつてあなた方が、つかの間のものと真実なるものとを識別するためのあなた方自身の力を培うことができるようにさせることです。あなた方がそのように確信し、そのように確固たる状態になる時、あなた方は

参考 『超人の悲劇　ドストイェフスキーの生涯と芸術』の中で、著者ヤンコ・ラブリンは、文明を「いつさ

いの外的価値（産業、技術、貿易、政治等）の総額」と、また文化を「いつさいの内的価値（宗教、芸術、哲学）の複合」と定義している。そして、現代史を外的価値による内的価値の蹂躪の歴史と見なしている。

もはやみずから真実ではないものを考え出すことはないでしょう。あなた方は多くの真実ではないもの、多くのつかの間のものに出会うかもしれませんが、しかしもしあなた方が確信を持てば、あなた方は常にそれらを識別し、拒み、あるいは受け入れ、あるいは拒否することができるようになるでしょう。

あなた方が確信を抱く時、種子をまくべき時が来たのです。あなた方が確信し、積極的になる時、築き上げるための人生が訪れたのです。なぜならその時には、あなた方は真理についての自身の理解を踏まえて築き上げ、他の誰かの独自性によつてではなく、あなた方自身の独自性において発達するからです。が、その 人生 を理解するための力は、あなた方が確固としている時にのみ起こりうるのです。このすべてを申し上げているのは、私自身がそれを得たからです。それは、人間の中に入ってきて、彼の精神と心の態度をそっくり変えてしまふ、何か神秘的な力ではありません。それは、自分自身を再調整するためのたゆみない奮闘、つかの間のもの、真実ではないものと、永続的なもの、真実なるものとを識別し、虚偽の中に真理を、醜の中に美を発見するためのたゆみない努力なのです。

何が人生の目的かに関して、あなた方がいかなる疑いも超えて確信を持ち、確固としなければならぬことを心に留め、その観点から個人を吟味してみましょう。現代文明においては、集団が個人を 彼の成長におかまいなしに 支配すべくやつきになっていきますが、私の唯一の関心は個人にあります。重要なのは個人なのです。なぜなら、もし個人が自分の目的をはっきり自覚しており、確信を持ち、確固としていれば、社会に対する闘いはやむでしょうから。その時に

は彼は社会によつて支配されないでしょう。彼は自由になり、社会から独立し、結社や集團の道徳、狭隘さ、しきたりから独立するでしょう。個人は全宇宙であり、全世界であつて、世界の部分ではないのです。各人の中の自己^{ego}は様々な方向に絶えず努力し、実験しており、ゆえに個人はすべてを排除するのではなく、すべてを包含するのです。あなた方の中、私の中、他の何百人もの人々の中の自己は、表現は異なるかもしれませんが、また異ならねばなりません、同じなのです。

個人は宇宙の焦点です。あなた方が自分自身を理解しないかぎり、あなた方が自分自身の豊かさを掘り起こさないかぎり、あなた方は支配され、コントロールされ、教導され、助けられ、せき立てられ、絶えざる紛糾の車輪に巻き込まれる可能性があります。ですからあなた方は自分自身 個人 に関心を持たねばならないのです。私は少しも利己的な観点を唱道していません。あなた方自身が正しいと思うことを実験してみなさい。他の誰かが正しいと言うことをではなく。

個人 すなわち、あなた方自身 の中には二つの要素があります 前進的(progressive)なものと、永遠なる(eternal)ものが、永遠なるものは、あなた方の経験の集積、ひいては万人の経験の集積です。なぜなら、経験は表現においては相違するかもしれませんが、経験の結果は本質において同じだからです。例えば、怒りの経験。ある人はそれがある仕方では経験し、他の人はそれを他の仕方では経験するかもしれませんが、成長における経験の結果は同じです。前進的自身が味わう偶発的経験とそれらの経験の結果を通じて、この永遠なる自己にあなた方は絶えず追加して

いくのです。すなわちあなた方は、毎日の出来事に依存している前進的な自己を、あなた方の経験の結果である永遠なる自己、ひいては万人の永遠なる自己との合一へと至らせるのです。

ここで述べられていることは特に複雑なことでも、理解が困難なことでもありません。繰り返して言いますが、あなた方各々の中には、経験の集積の結果であるあの永遠なる要素があります。それから、自分のまわりのあらゆるもの、あらゆる出来事、あらゆる思考を永遠なるものにするべく絶えず努めている前進的な要素があるのです。前進的な自己は、経験によつてつかの間のものの中にある真実を集めるべく努め、醜の中に美を、虚偽の中に真理を探し求めます。永遠なる自己は、「解放」と呼んでいるもの、あなた方の中のあの絶対的に解放された部分です。これは類比^{アナロジー}なので、そういうものとして受けとめ、極端に走らないようにしてください。あなた方に一定の自由を与え、同じ種類のさらなる経験を要求しない、そういう経験の残滓があり、ゆえにあなた方の中のその部分は解放され、永遠なるもの　あらゆるものおよびあらゆる人の中の永遠なるもの　に属するのです。

もしあなた方の中の前進的自己が永遠なるものと合一していなければ、悲しみがあり、葛藤があり、絶えざる再調整、絶えざる苦闘、真実なるものの絶えざる探求があります。鳥が谷間を通り抜け、騒がしい都会の上を飛び越えて、常にその住処に戻るように、もしあなた方の中の前進的自己が永遠なるものを知れば、それは人生のすべての出来事を突き抜け、あらゆる経験の結果を集めつつ、あの永遠なるものへと戻るのであります。それが、あなた方が人生においてなすべく試

みていることなのです。それにはなんら神秘的なものはなく、いかなる形而上的思考も必要とされません。現象を通じて、表現を通じて、前進的自己は自分が集積できるものを見出し、それによって自分自身を永遠なるものにすべく試みているのです。前進的なものと永遠なるものとの間にこのギャップ　もしこのような直喩(simile)を用いてよければですが　があるかぎり、当然ながらそのギャップは満たされるべき絶えざる要求を生み出し、そしてその満たすプロセスは紛糾、探求、実験の連続であり、人生の無数の出来事です。なぜなら、人生によってのみ、あなた方はそのギャップを埋め、そのギャップを豊かにし、前進的自己を永遠なる自己と合一させ、かくしてすべての紛糾がやむからです。

葛藤を経ることによってのみ、葛藤の終焉が起こるのです。あなた方が自己の前進と成長を見出すのは、この世界から離れることによつてではなく、そのただ中の自己の表現を通じてなのです。が、もし前進的自己が永遠なるものを知らなければ、あなた方は舵のない船、巢のない鳥、紛糾や絶え間ない葛藤から離れた山頂にその住処を持っていない鷲のようなものです。ゆえにあなた方は、自分自身の力で、何が永続的かをしっかりと、確固として、なんの疑いもなしに見出さねばならないのです。永遠なるものは　生　であると私は言明します。そしてその　生　によつて私は、その中では理性と愛が均衡している、そういう生き方を意味しています。個人としてのあなた方の人生が経験の束縛に陥っているかぎり、真理に到達することはできません。が、あなた方が自己の調和に到達するやいなや、真理と解放と永遠性が実現するのです。

それらに到達する過程では、あなた方は主張し、そして主張によつて悲しみを招きます。が、あなた方は主張しなければなりません。それは避けがたいのです。主張することはまさに自己の本質であり、そしてあなた方は、世界から引つ込むことによつてその主張を避けることはできないのです。あなた方があの真実、あの永遠性について不確かであるかぎり、前進的自己は自身を導くためのものを何も持たないのです。その時、個人としてのあなた方は宿無しであり、自分を明確な目標へと導くためにあらゆる経験のエッセンスを集積することなしに、あらゆる経験にもてあそばれて、あちらこちらにさまよい歩くのです。ですからあなた方は自分の力で、この確固とした存在　その中にいかなる不和も沈滞もない、そういう存在　を見出さねばならないのであり、そしてそれは、監獄　その中であらゆる個人が暮らしている監獄　の中にある　生　を解放することによつてのみ可能であると私は言明します。

あなた方は、日常のあらゆる出来事に通じることによつてのみ、前進的なものを永遠なるものにする事ができるのです。そのことをあなた方が理解するやいなや、あなた方は確信を持ち始めるのです。他の誰もあなた方をこの確信へと導くことはできません。あなた方自身以外の誰も、あらゆる経験からそのエッセンスを引き出すのを助けることはできないのです。自己があらゆる出来事の魔手に捕らえられているかぎり　で、これはあなた方全員に言えることなのです。永遠なるものに到達することはできないのです。「自己」を理解しないかぎり、けつして心の平安も十分な知識もありえません。なぜなら、自己についての理解が知識だからです。

人生のあらゆる出来事を通じて、前進的自己はありとあらゆる経験を吸収同化していくのだと

いうことを理解する時、その理解からのみ、真の自己規律が生まれるのです。たいていの場合、自己規律を刺激し、促すのは恐怖　罪への恐れ、しきたり・因襲への恐れ、友だちや隣人や集団が言うことへの恐れ　です。あるいは、またもや恐怖の要因である宗教によって、あなた方は自分自身を律し始めます。これもまた間違いです。なぜなら、恐怖が忍び込むやいなや、真の自己規律をもたらすことはできないからです。外側から押しつけられた自己規律には何の価値もなく、それは永遠なるものに行き着きません。理解することによってのみ、あなた方は真の自己規律をおこなうことができるのです。自己規律は　生　への愛から生れ出なければなりません。なぜなら、その愛は非腐敗性を確実にするからです。そのような理解から、あなた方は、永遠なるものに照らして自分自身に自己規律を課するのです。そのような規律にはいかなる恐怖の要素もないがゆえに、価値があるのです。解放　生　の完成　は、理解をもってあなた方自身に課される自己規律によつて以外、達成されることができないのです。

何の価値も持たない多くの無駄で無用なことを議論するかわりに、グル、儀式、漠然とした理論にすぎない宗教について論争するかわりに、一つでもいいからあなた方自身が理解したことを実行するよう私は願います。そしてその理解から、あなた方の人生観がそっくり変わることでしょう。あなた方自身に課された規律はあなた方自身の独自の発達です。あなた方は、私のとはまったく異なるあなたの精神とあなたの人生を発達させていくのですが、にもかかわらず結果は同じであり、あなた方の自己表現が私のそれと衝突することはありえないのです。

あなた方のほとんどは、それが一つの可能性であることに知的には同意します。が、心には何

の変化も起こらないのです。あなた方は皆、悲しみ、不幸、不和をかかえ、意識的または無意識的に非現実的なもの「ありもしないもの」の虜になっているのではないでしょうか？ あなた方は自分がいかに自分自身の「作り上げた」獄舎の中に囚われているかご存じないのです。で、あなた方がそれに気づかないかぎり、私があなた方に真理について、解放について語っても無駄なのです。必要なのは心の変化 (change of heart) であり、そして心の変化は人生に新しい表現を与えねばなりません。純然と知的な理論ではなく、完全な断絶がなければなりません。狭隘にするすべてのもの、獄舎を造り上げるすべてのものにとつて危険な存在にならねばならないのです。あなた方はただ、自分の監獄の鉄格子を飾り立て、それによつて人間を自由にしていると考えているだけなのです。

あなた方の靈感は、もしあなたが靈感を欲するなら、あなた方を変えるためのは、み、熱情であるべきです。もしあなたが自分自身を変えなければ、あなた方の熱情はなんの価値もなく、持続力を持ちえないのです。そのような心の変化がある時、拡大が起こります。理解による拡大が、恐怖によるそれではなく、そしてあなた方が拡大するにつれて、あなた方は絶えず美を追求していくのです。形ならびに真理における美、現象ならびにすべての現象を創り出すものにおける美を。あなた方は自分の家を、自分の服装を、全人生を変えるのです。

私は優越した観点から、あるいは異なった思考態度からあなた方に話しているではありません。私は、自分が考え抜かなかつたいかなるもの、到達すべく苦闘し、闘い、犠牲にしまかつた

いかなるものも説いていません。私はあなた方に、自分が試みたことを告げているのです。それは啓示ではありません。私が到達したものは、あなた方の誰も到達しなければならぬと私は申し上げます。それは私だけの特権ではありません。なぜなら、あらゆる人が悲しみにとらわれており、あらゆる人が、何の理解もなしに、無駄に、いたずらに苦闘し、靈感を追求し、あれこれのことを試み、犠牲にし、放棄しているからです。何の理解もなしに自己規律が課され、瞑想、集中がおこなわれています。これらすべてが、生 の意義についての理解なしにおこなわれているのです。その理解なしには、あなた方が何をしようと、それはすでに存在している混乱、苦闘を単につらせるだけです。

まずあなた方は、何が人生の意義、目的かを理解しなければなりません。すると、その理解から理性と愛の調和が起こるのです。その理解から、あらゆるものが明瞭になり、そしてあなた方は大いなる熱情を持つでしょう。あなた方が私の集會に参集されなくなっても、私はかまいません。こうしたことに真に関心がある人が一人でもいれば、私は彼に話しに行くでしょう。もし私が人気や金銭や崇拜を求めているのなら、私はここに来たりはしないでしよう。そういったものは私には存在しないのです。私が望んでいるのは理解です。なぜなら、人生観がそっくり変わるのには理解からだからです。私はあなた方が同意することを望みません。なぜなら、同意には解放はないからです。が、理解することに生きることの意義があり、持続的变化があるのであって、そこから恍惚、熱情が起こり、単に飾り立てようとするのはなく、一新しようとする願い、あなた方自身が自由であるがゆえに人々を獄舎から解放しようとする願いが起こるのです。これ以

外にどんな生があるというのでしょうか？　すべての傷を癒す軟膏のように、これがあなたの方すべての困難を解決するというのに、なぜあなた方は無用で無駄なことを議論するのにすべてのエネルギーを費やすのですか？　それは、あなた方が生きたものより死んだものの方により多くの関心があることを意味しているのです。

毒矢を射られた時に、誰がそれを射たのか、誰によつてそれは作られたのか、どのような種類の毒が使われたのかを知りたがり、そしてこれらすべての問いを発している間に死んでしまった人の物語を覚えていますか？　それこそはまさにあなた方がしていることなのです。あなた方は生きることを欲せず、死の方に、彼岸に何かがあるかの方により関心があるのです。が、もしあなた方が生きれば、彼岸は存在しないのです。なぜなら、彼岸とは単に生「此岸」の続きにすぎないからです。

そういうわけで、友よ、あなた方は来年または再来年、今までと同じような考え方のまま戻つて来るかもしれませんが、その時も依然として悲しみにとらわれていることでしょう。もしこの参集者のうちの二名がここで言われたことを理解すれば、彼らは、どこに行こうと、人生観および状況をそっくり変え、改め、そして彼らのまわりの真実ならざるあらゆるものにとつて厄介者、危険な存在になるでしょう。彼らはそれらのものに対して絶えず闘いを挑み続けるでしょう。なぜなら、彼らは確信を持ち、確固不動だからです。彼らは実験し、あの正しい理解に至つたが

ゆえに、自分が言っていることに自信を持っているのです。

真理はいかなる弟子も、それ自体のいかなる信念も持つておらず、したがってあなた方は真理の弟子にではなく、真理それ自体にならねばなりません。それは 生 への愛です。そしてその愛から、すべての経験の残滓である理性、叡智、腐敗しえない単純文(simplicity)が生まれるのです。あなた方が人生の意義、目的を理解する時、あなた方のまわりに存在している、真実ならざるすべての複雑なものは消え失せ、そしてその消滅とともに、あなた方は新たな生 真実に属する生、そのすべての表現への恍惚と持続的な歓喜にあふれた生 を生き始めるでしょう。なぜなら、あなた方はその時すべての表現の源となり、もはや真実ならざるものに囚われなくなるからです。